

人間開発

ってなに？



—ほんとうの豊かさをめざして—

国連開発計画 (UNDP)
United Nations Development Programme

私たちはこれまでさまざまな開発への取り組みを行ってきました。

世界は20世紀に大きく前進し、特に過去30年に開発途上国が遂げた進歩はめざましいものがあります。

それでも、私たちの世界には、依然として深刻な問題が広く根深く存在しています。

21世紀を迎え、今こそ途上国も先進国も力を合わせ努力しなければならない時にきています。

2000年9月に採択された国連ミレニアム宣言では

8つの具体的目標を「ミレニアム開発目標（MDGs）」として定め、

2015年までに一定の数値目標を達成することを189の加盟国が公約しました。

これらの目標をどの国も落後することなく達成するには、

どのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

Human Development

- ① 私たちの住む世界 2
- ② 人間開発と『人間開発報告書』 5
- ③ 人間開発指数(HDI)とは 9
- ④ ミレニアム開発目標と人間開発 13

私たちが 住む世界の

1

21世紀最大の課題は貧困の撲滅である

私たちの住む世界

21世紀を迎えた私たちの住む世界全体を見渡したとき、どのような光景が目に入るでしょうか。20世紀の科学や産業の急速な発達により私たちはさまざまな歴史的な進歩を遂げました。途上国もその例外ではありません。全世界60億人の4分の3に当たる45億人は途上国に暮らしていますが、過去30年間に世界の平均寿命は8年延び、非識字率は47%から25%に下がりました。安全な水を利用できる農村世帯の割合は5倍以上に増加し、途上国の平均所得は実質ベースでほぼ倍増しました。

それでも現在12億人が1日1ドル未満で、20億人以上が2ドル未満で生活するなど、依然多くの人々が進歩や豊かさから取り残されているのです。いまだに10億人以上が安全な水を、8億5,000万人以上が十分な食糧を得ることができません。適切な医薬品がなく治療が受けられないために、5歳までに死亡してしまう子どもたちが毎年1,000万人もいます。

世界の環境汚染や天然資源の枯渇は、豊かな国や裕福な人の消費パターンに大きく関連して

います。気候変動の要因となっている温室効果ガスの排出などはその1例です。1人当たりの年間二酸化炭素排出量は、中所得国では3.2トン、低所得国は1.0トンであるのに対し、高所得国では12.4トンにも上ります。こうした大量の消費による気候変動は農業に損害を与え、人々を洪水などの災害にさらすことになります。これらの損害は貧しい人々の生活に最も大きな打撃を与えます。

こうした豊かな世界と貧しい世界の異常なまでの不均衡を示す数字は枚挙にいとまがありません。

支えあう世界

問題は、豊かな国の豊かな人々は快適な生活を享受する一方、貧しい国の貧しい人々は耐乏生活を強いられているということだけでしょうか。

貧しい人々は、情報も教育も公共サービスも十分得られないため、自らの生活を管理したり、持続的な方法で資源を利用したりすることがむずかしいのです。格差を放置しておけば、人口

少しでも豊かな生活を求める人々が農村から都市へ流入し、途上国では都市周辺のスラムが拡大している。



が爆発的に増加し、環境汚染が進み、エイズなどの病気が蔓延し、貧困がさらに進みかねません。そして、紛争やテロが起こり、難民が発生し、平和が破壊される場合など深刻な問題を引き起こす恐れさえあります。そうなれば、社会が不安定になってしまうでしょう。

グローバル化する世界では、国境の消滅が急速に進み、そして否応なく人々の生活を結びつけていきます。こうした相互依存の避けられないグローバル社会で、著しい格差は私たち地球上のすべての人々の生活に影を落とし、先進国に暮らす人々の生活をも直撃します。私たち全員が安心して人間らしい生活を送るには、公正で平等な世界を実現することが必要なのです。

Box 1-1

UNDPの役割— HDRの発行について

国連開発計画 (UNDP) は途上国に対する技術協力活動を推進するため、国連システムの中心的資金供与機関として1966年に発足しました。UNDPの任務は、開発途上国や市場経済移行国の持続可能な開発をさまざまな角度から支援することです。1990年には『人間開発報告書』を創刊し、「人間中心の開発」という考え方を発表しました。この理念は、国際社会に幅広く受け入れられ、日本の政府開発援助の基本理念のひとつにもなっています。

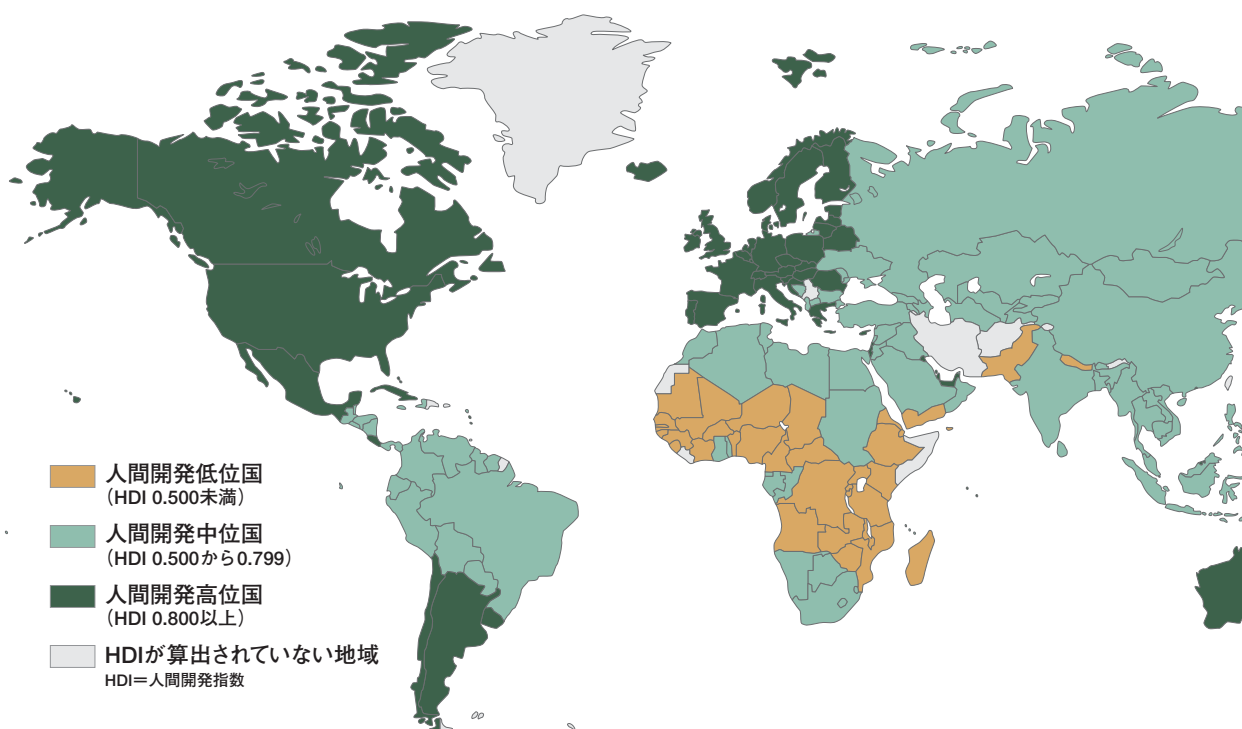
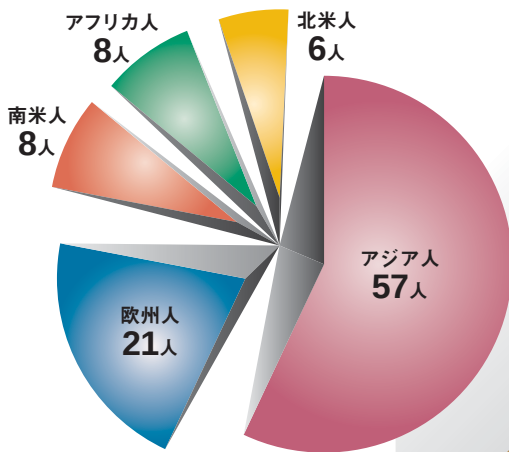


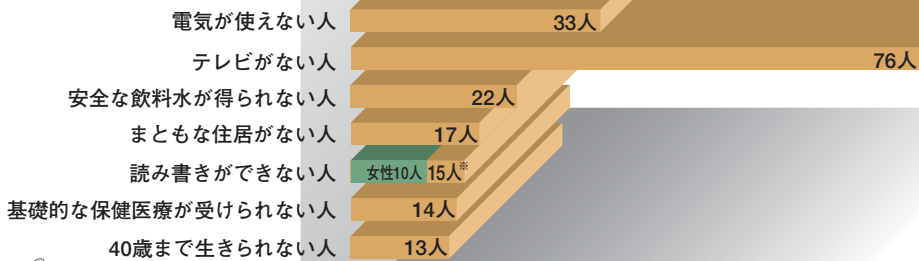
図1-2
人間開発指数から見た世界の状況

『人間開発報告書』2003より作成

図1-1
地球上の人間がわずか100人だとしたら



- 最も豊かな20人が全体の富の90%を消費し、最も貧しい20人は1%しか消費していない。
- 最も豊かな20人は最も貧しい20人の74倍の収入がある。
- 最も豊かな20人が電話回線の74%を使っている。



※読み書きのできない15人のうち10人は女性である。

(UNDPホームページ www.undp.or.jp)



豊かな国では家族揃っての食事は大きな楽しみ
のひとつである。一方貧しい国では生存のため
に水や食糧を確保することは大仕事だ。

『人間開発報告書』

2

人間開発に経済的豊かさは欠かせないが、
際限なく豊かになる必要はない。
大切なのは、自らの意思に基づいて人生の選択と
機会の幅を拡大させること

人間開発(Human Development)とは

「人間開発」の概念は社会の豊かさや進歩を測るのに、経済指標だけでなく、これまで数字として現れなかった側面も考慮に入れようとして生まれました。

「人間が自らの意思に基づいて自分の人生の選択と機会の幅を拡大させること」を開発の目的とし、そのためには「健康で長生きすること」「知的欲求が満たされること」「一定水準の生活に必要な経済手段が確保できること」をはじめ、人間にとって本質的な選択肢を増やしていくことが必要だとしています。



基本的な物質的・経済的豊かさに加え、教育を受け文化的活動に参加できること、バランスのよい食事がとれて健康で長生きできること、犯罪や暴力のない安全な生活が送れること、自由に政治的・文化的活動ができて自由に意見が言えること、社会の一員として認められ、自尊心を持てること——これらが揃って真の意味の「豊かさ」が実現できるという考え方です。

たとえば、タリバン政権下のアフガニスタンでは、健康に恵まれ十分な教育を受けていても、女性は就労、就学だけでなく、日常の行動の自由が大きく制限されていました。アフガン女性は、社会の一員として自尊心を持って自分の意思で活動するという大切な機会を奪われていたのです。

『人間開発報告書』はなにを伝える

『人間開発報告書』(HDR: Human Development Report) は1990年に元パキスタン大蔵大臣、当時UNDP総裁特別顧問であったマブール・ハック(1934-98)の発案によって創刊されました。開発は「持続可能な人間開発」をめざすべきであり、そのためには経済成長を生み出すだけでなくその恩恵を公平に分配できるような開発でなければならないという考えに立って、さまざまな角度から開発の重要課題を扱っています。本書はこうして毎年、時代の一步先を読むテーマを取り上げるとともに、一貫して人間中心の視点か

ら貧困に取り組んでいます。この視点は、すべての『人間開発報告書』のあらゆる分野に活かされています。また報告書の主張や提言は多くの国の政策にも影響を与えています。

時代の一步先を読む

『人間開発報告書』は1990年以来、冷戦後に取り組むべきさまざまなテーマを扱ってきました。つねに時代に先んじたテーマを取り上げ、新しい技術の開発や世界の動きがもたらす恩恵と同時に潜在的な危険性を指摘しつづけています。92年には広がりつつある世界の経済・所得格差を警告し、96年は「バランスのとれた経済成長モデル」の必要性を訴えています。94年の「人間の安全保障」は、発表された当時はまったく新しい概念でした。しかし現在、テロやエイズなどの脅威が身近になり、安全保障への認識は高くなっています。99年の「グローバリゼーション」では、その光と影を論じましたが、その後まもなく、グローバル化の波が明らかに自分たちの生活に影響を与えていることを実感することになりました。2000年には人権を、2002年にはガバナンスや民主主義を取り上げ、真の開発にはなくてはならないものと主張しています。

『人間開発報告書』の読み方

『人間開発報告書』で伝えようとしているのは人間開発指数(HDI)だけではありません。HDIはあくまでも本書の入口に過ぎず、その先をゆっくりと読み進んでいけば、今日の課題に加え、現在の社会の変化が内包している潜在的な危険性や問題にもいち早く気づくことでしょう。「人間中心の開発」や貧困やジェンダーなどの特定の視点から読むこともできます。

Box 2-1

『人間開発報告書』のインパクト

もし政府関係者や政策に携わる人々が、『人間開発報告書』に発表された自国のHDIやGEM順位の低さやその他の分析に反発を含め敏感に反応するとすれば、それも報告書の1つの効果といえる。私たちは良くも悪くも順位というものに敏感だ。HDIその他の指数の国別ランキングを各国のマスコミが取り上げ、人々の関心を集め、それが自国の政策へ影響を与える可能性もある。

ボツワナでは、HIV/エイズがどのように国の成長を阻害し貧困を助長しているかをテーマに国別開発報告書が作成された。この報告書はエイズ治療薬に関する国民の議論を盛り上げるきっかけとなり、その後同国のフェスタス・モハエ大統領はUNDPなどから支援を得て、必要とする国民すべてにエイズ治療薬を支給することを決定した。

現在、UNDP現地事務所と協力し国別の人間開発報告書を作成している途上国が約140カ国もある。ボツワナ以外にも報告書作成の過程やその結果から、政策上の問題点を発見したり再確認したりし、改善に結びつけている国は多い。



途上国の女性の家事労働時間は非常に長く、女性への大きな負担になっている。



1990年から2004年までの『人間開発報告書』のテーマ

1990年 「人間開発の概念と測定」

1991年 「人間開発の財政」

1992年 「人間開発の地球的側面」

1993年 「人々の社会参加」(以上、90-93年は日本語版なし)

1994年 「人間の安全保障」—人類にとっての平和の配当とは何か

人間の生活を脅かすあらゆるものに対する「人間の安全保障」という概念が、はじめて示された。この年にはじめて日本語版が出版された。

1995年 「ジェンダーと人間開発」—男女平等に向けての革命をめざして

男女の生物学的性別ではなく社会的な性差、ジェンダーを広く紹介することになった。ジェンダー開発指数(GDI)、ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)が発表された。

1996年 「経済成長と人間開発」—21世紀のシナリオはだれが書くのか

経済成長は人間開発にとって必要だが、その恩恵を貧困者にも公平に行き渡らせることが重要である。日本は経済成長を人間開発に転換した好例である。

1997年 「貧困と人間開発」—貧困撲滅に取り組まないのは道義的に許されない

貧困を人間の選択肢が剥奪されている状況とし、貧困撲滅への新しい取り組みを提案する。この年、途上国の人間貧困指数(HPI-1)が発表された。

1998年 「消費パターンと人間開発」—明日の人間開発に役立つ消費パターンとは

消費の不均衡が引き起こす環境破壊などの持続不可能な現状を分析し、人間のためになる消費を提案する。豊かな国の貧困にも光をあてた。

1999年 「グローバリゼーションと人間開発」—それは、勝者と敗者を生む諸刃の剣なのか

市場原理が優先されるグローバリゼーションに警鐘を鳴らし、弱者のための「人間の顔をした」グローバリゼーションの必要を論じる。

2000年 「人権と人間開発」—世界に人権への取り組みを要求する

人間の尊厳を脅かす人権や自由の侵害が世界で執拗に続いている。人権への闘いの歴史をふまえ、新たな政治的経済的取り組みを大胆に提案する。

2001年 「新技術と人間開発」—技術が世界地図を書き換えている

世界中の国がグローバルネットワークに参加せざるを得ない今日、新技術の出現は途上国や貧しい人々にどんな影響と恩恵をもたらすのだろうか。

2002年 「ガバナンスと人間開発」—開発の失われた輪はガバナンスだった

政治は人間開発を大きく左右する。貧困削減は、人間開発に資する公正かつ平等な枠組みを提供できるガバナンスを構築できるか否かにかかっている。

2003年 「ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けて」—8つの目標が今後の世界を変える

世界の何十億もの貧しい人々に対し、途上国も先進国も、すべての国が自国の責任を引き受けたい限り貧困をなくし公正な世界を目指すMDGsの達成はむずかしいであろう。MDGsとは、あらゆる人々の責任と義務を問う史上初のグローバルな約束である。

2004年 「この多様な世界で文化の自由を」—文化の自由は人間開発の一部

宗教、民族言語の異なる文化的集団に対する差別を防ぐには、各国が多様な文化を推進する政策が必要である。社会の多様性を認め、文化的な自由を拡大することが、民主的で安定した社会を実現し、人間開発を促進できる唯一の持続的な方法なのだ。



医療の充実が乳児死亡率を改善する。

Box 2-2

How to use HDR—『人間開発報告書』の使い方

【概観】

その年の報告書のテーマと全体像がわかる。

【Box】

本文に関連した情報やさまざまな国の実例が率直な語り口で書かれている。目次で興味を引く見出しを見つけ、そこから読むこともできる。

【図表】

本文の内容にそって年ごとの比較や国際比較が視覚的にわかりやすく示されている。データの出典も掲載しているので、元のデータにあたることのできる。図表一覧が目次にある。

【人間開発指標表】

世界全体の動向や各国の努力の跡がわかる。2003年は30の指標表を掲載。学習や研究の資料としても広く役立つ。ほとんどの指標表は人間開発指数の高い順に並んでいる。

【『人間開発報告書』の統計資料について】

本書で分析に使った統計の出典や説明、データを使って分析するうえでの注意点が書かれている。指標表を使う前にぜひ一読してほしい。

【テクニカルノート】

人間開発にかかわる指数（HDI、GDI、GEM、HPI）の算出方法が詳しく載っている。2003年はMDGsの達成にむけて優先的に取り組むべき国の決め方も示している。

こんなときは？（『人間開発報告書』2003年を使った場合）

1. ある国の人間開発指数（HDI）順位をすぐ知りたい：たとえばニカラグア

👉「各国の人間開発順位」（一番最後のページ）を見る ▶ アルファベット順に並んでいる国名のなかから Nicaragua（ニカラグア）を探す ▶ 国名の横にある数字（121）がHDI順位。

2. ある国の乳児死亡率を知りたい：たとえばブータン

👉 1.のやり方でブータンのHDI順位を探す（136位） ▶ 「指標項目一覧」で「な」の行を探す ▶ 右横の数字が「乳児死亡率」に載っている指標表の番号（この場合指標表8） ▶ 指標表8「生存状況：前進と後退」で136位のブータンを見る ▶ 「乳児死亡率」の列を見る。

3. 各国の女性の社会参加状況についてデータがあるか知りたい

👉 「指標項目一覧」で「女性」の項を探す ▶ 女性の政治参加、女性の経済参加の番号を見る（この場合は指標表23、27） ▶ 指標表23（ジェンダー・エンパワーメント指数）と27（女性の政治参加）を見る。

4. 1人当たり電気消費量の出典がWorld Bank 2002bとなっていたが、文献の正式名を知りたい

👉 指標表の後ろにある「統計資料」を見る ▶ World Bank. 2002b. World Development Indicators 2002（CD-ROM）が正式文献名であることがわかる。

HDIとは人間開発指数

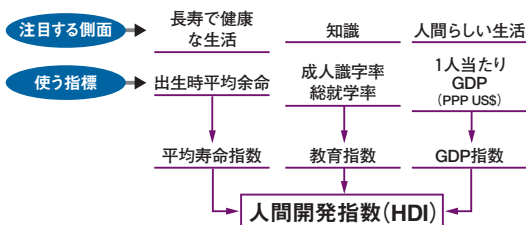
3

たった1つでいい。
ただ、GNPほど人間生活に無理解でない
尺度が必要なんだ。——マブール・ハック

人間の可能性を測る

人間開発指数(HDI: Human Development Index)は、各国の人間開発の度合いを測る新たなものとして発表された、包括的な経済社会指標です。HDIは各国の達成度を、長寿、知識、人間らしい生活水準の3つの分野について測ったものです。HDIは0と1の間の数値で表されます。1に近いほど、個人の基本的選択枝が広い、つまり人間開発が進んでいることになります。

図3-1
HDIの計算



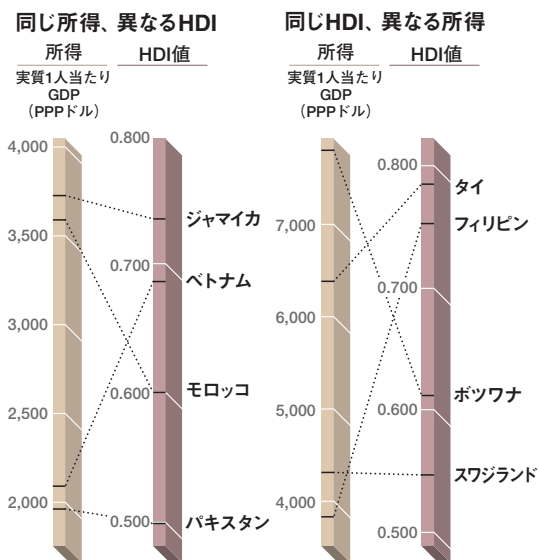
『人間開発報告書』2003 テクニカルノート1の「HDIを算出する」ではアルバニアを例に計算方法を詳しく説明している。

毎年の報告書ではHDIによってその対象国(2003年は175カ国)が1位から最下位までランク付けされています。

GNP、GDPとHDI

国民総生産(GNP)や国内総生産(GDP)は単にその国の所得がどのくらいあるかを示すもので、その所得がどのように分配されているかはわかりません。国民の健康や教育のために使われているのか、あるいは軍備なのかはわかりません。

図3-2
同じ所得でもHDIが違う



出典：『人間開発報告書』2003

きれいな水をいつでも利用できるということは、乳幼児死亡率の改善や女性のエンパワーメントにとって非常に意味がある。



一方HDIを見ると政府がどのような政策を選択しているかがわかります。図3-2のようにジャマイカとモロッコの所得はそれぞれ、3,720ドルと3,600ドルとほぼ同じですが、HDIは78位と126位と大きく開いています。成人識字率がジャマイカ87.3%、モロッコ49.8%と大きく異なっていることもHDIの差の一因です。また、ベトナムとパキスタンの所得は、2,070ドル、1,890ドルと大差ありませんが、HDI順位は109位と144位とかなり違います。この場合も成人識字率はベトナム92.7%、パキスタン44.0%と大きく異なっています。その逆に、タイとフィリピンやボツワナとスワジランドのようにHDIはほぼ同じでも所得は大きく異なっている例もあります。所得が低くても人間中心の開発を進めることができるのがわかります。

HDIで測れないもの—人間開発はHDIを超えたもっと大きなもの

人間開発の概念は、教育や保健医療、人間らしい生活水準が向上すればよいという狭く単純化されたものではなく、より複雑で大きなものです。たとえば、HDIで政治的自由や地域の社会生活への参加や身体的な安全を測ることはできません。こうした読み書きや健康と同じくらい人々にとって大切な指標がHDIに含まれていないのは、適切に測定するのがむずかしいからで、人間開発にとって重要性が低いからではありません。

その他の指数

ジェンダー開発指数 (GDI: Gender-related Development Index)

人間開発の視点から、HDIと同じ3つの基本的条件(長命、教育、所得)に注目した指数ですが、GDIは特にジェンダーの不平等に焦点をあてたも

のです。HDIと異なるのは、GDIでは平均寿命、識字率と平均教育達成率、所得のそれぞれを男女格差に従って調整していることです。GDIを見ると次のことがわかります。

●GDI分析1—女性を男性と同じように扱っている社会はない

1.0という数値は完全なジェンダー平等のもので基本的な能力を最大限発揮できることを意味するが、この数値を達成した国はない。2003年のGDIの数値が1位のノルウェーでも0.941である。

●GDI分析2—ジェンダーの平等は社会の所得水準に左右されない

国のGDI順位と所得水準との比較から、ジェンダーの不平等をなくすことと所得の高さとは無関係であることが確認されている。『人間開発報告書』2003によるとサウジアラビアは1人当たりのGDP (PPP US\$)が13,330ドルでGDIは68位、一方ジャマイカは1人当たりのGDP (PPP US\$)がわずか3,720ドルなのにサウジアラビアよりも上位の65位である。

ジェンダー・エンパワーメント指数 (GEM: Gender Empowerment Measure)

GDIと同様にジェンダー不平等を測るものですが、女性が社会的、政治的、経済的にどのくらい力を持っているか(女性のエンパワーメント)を見ようとするものです。日本のGEM(2003年は44位)は豊かな先進国のなかでは著しく低い数値に留まっています。

人間貧困指数 (HPI: Human Poverty Index)

HPIは、従来の低所得＝貧しい、という図式を

超えた「人間貧困」という新しい貧困の姿を示すことに成功しました。経済的な側面だけでなく、健康でないことや読み書きが十分できないことも貧困の一面であるという考え方からは途上国向けのHPI-1が、そして、貧困は社会的文化的な疎外も意味するのだという考え方からは先進国向けのHPI-2が生まれました。数値は、人が生活するうえでどのくらい選択肢が限られているか(剥奪状況)の各国の度合いを示しています。(これらの指数の詳しい算出方法は『人間開発報告書2003』テクニカルノートを参照のこと)

『アラブ人間開発報告書』—アラブの新しい未来像を模索する野心的レポート

相次ぐテロ事件にアラブ地域への国際社会の関心と懸念が高まる中、アラブ人専門家の手による『人間開発報告書』(4回シリーズ)が注目を集めている。2002年は政治社会状況を厳しく自己分析し、03年は知識社会としての再生を呼びかけた。04年は自由とガバナンスの深刻な不足、05年はアラブ世界の女性の地位向上の必要性を徹底検証している。

<http://www.undp.org/rbas/>

Box 3-1

豊かでも貧しい国

■豊かな国で暮らす最も貧しい人々でさえ、通常、途上国で暮らす貧しい人々よりもはるかに所得が高い。それにもかかわらず、豊かな国の貧しい人々は深刻な剥奪状況に苦しんでいる。それはなぜだろうか? 国が豊かになるにつれて、人並みの社会生活を送るにはそれまで以上に高価な商品やサービスが必要になってくる。家にテレビがなければ、子どもたちは仲間はずれにされるかもしれない。コンピュータや携帯電話がなければ、ビジネスに支障をきたす国もある。かつては贅沢品であった物が社会全体に普及するにつれて必需品になってくる。そのため、豊かな国でも、常に満たされない人や状況が生まれてくる。

■OECD諸国の大半では過去20年間に所得が増大したにもかかわらず、所得不平等が拡大した。なかでも、英国と米国における所得の不平等の拡大は著しいものだった。豊かになったのは、もともと豊かな人々だけで、貧しい人々には豊かさが分配されずに取り残されている。米国の最も豊かな世帯1%の所得は、1979年には中間層世帯の所得の10倍だったが、97年には23倍になった。ところがカナダとデンマークでは不平等が抑制あるいはわずかに減少している。政治的意思があれば、所得の上昇に伴う不平等の増大は避けられるといえよう。(『人間開発報告書』2002, Box 1.2から作成)

HDI誕生秘話: マブーブル・ハックとアマルティア・センの対話

—『人間開発報告書』1999年の特別寄稿をもとに—

1998年のノーベル経済学賞受賞者であるセンは、99年の報告書の特集「人間開発の10年」のなかで、HDIの発案者マブーブル・ハック(故人)とのこの指数をめぐるやりとりを明かしている。センが複雑な現実をHDIという1つの単純な数値でとらえることに強い疑問を表し、「荒削りでおおまかな指数」になぜそれほどこだわるのかと問うと、ハックはこう答える。「われわれが必要としているのは、GNPと同じ程度に俗っぽい尺度なんだ。たったひとつでいい。ただ、GNPほど人間生活の社会的側面に無理解でない尺度が必要だ…」

そのときセンの頭のなかには、「人間というやつはそんなにも現実を引きうけられるものではない」というT. S. エリオットの詩の一節が浮かんだと書いている。後日、多くの人の関心をさらったHDIの成功に対し、「ハックは、望みどおりのものを手に入れることができた」そして「彼に荒削りな尺度を追い求めるのをあきらめさせなくよかった」と告白している。

次世代の未来のために、私たちがすべきことはたくさんある。



表3-1

HDIはどの国も高いが… (アメリカ、日本、ノルウェーの順位比較)

…男女別に見ると (GDI、GEM)

…人間貧困状況を見ると (HPI)

	HDI	GDI	GEM	HPI-2
1	ノルウェー	ノルウェー	アイスランド	スウェーデン
2	アイスランド	アイスランド	ノルウェー	ノルウェー
3	スウェーデン	スウェーデン	スウェーデン	フィンランド
4	オーストラリア	オーストラリア	デンマーク	オランダ
5	オランダ	アメリカ	フィンランド	デンマーク
6	ベルギー	カナダ	オランダ	ドイツ
7	アメリカ	オランダ	オーストリア	ルクセンブルグ
8	カナダ	ベルギー	ドイツ	フランス
9	日本	デンマーク	カナダ	スペイン
10	スイス	フィンランド	アメリカ	日本
11	デンマーク	イギリス	オーストラリア	イタリア
12	アイルランド	スイス	ニュージーランド	カナダ
13	イギリス	日本	スイス	ベルギー
14	フィンランド	オーストリア	スペイン	オーストラリア
15	ルクセンブルグ	ドイツ	ベルギー	イギリス
16	オーストリア	アイルランド	アイルランド	アイルランド
17	フランス	フランス	イギリス	アメリカ
18	ドイツ	ルクセンブルグ	バハマ	
19	スペイン	ニュージーランド	コスタリカ	
20	ニュージーランド	スペイン	バルバドス	
21	イタリア	イタリア	ポルトガル	
22	イスラエル	イスラエル	トリニダード・トバゴ	
23	ポルトガル	ポルトガル	イスラエル	
24	ギリシャ	ギリシャ	スロバキア	
25	キプロス	キプロス	ポーランド	
26	香港	香港	シンガポール	
27	バルバドス	バルバドス	スロベニア	
28	シンガポール	シンガポール	チェコ	
29	スロベニア	スロベニア	ナミビア	
30	韓国	韓国	ラトビア	
31	ブルネイ	ブルネイ	ボツワナ	
32	チェコ	チェコ	イタリア	
33	マルタ	マルタ	エストニア	
34	アルゼンチン	アルゼンチン	キプロス	
35	ポーランド	ポーランド	フィリピン	
36	セイシャル	ハンガリー	クロアチア	
37	バーレーン	スロベニア	ドミニカ	
38	ハンガリー	エストニア	ボリビア	
39	スロバキア	ウルグアイ	ペルー	
40	ウルグアイ	バーレーン	ギリシャ	
41	エストニア	コスタリカ	ハンガリー	
42	コスタリカ	リトアニア	ウルグアイ	
43	チリ	チリ	メキシコ	
44	カタール	クロアチア	日本	
45	リトアニア	クウェート	マレーシア	

(『人間開発報告書』2003 指数表1、4、22、23より作成)

ミレニアム開発目標と人間開発

みんなのゴール。
ミレニアム開発目標 (MDGs) は
自国だけでは解決できない地球規模の問題です。

4

MDGsってなに？—いままでの開発目標となにが違う、どこが違う。

ミレニアム開発目標 (MDGs: Millennium Development Goals) の掲げる目標は必ずしも目新しいものではありません。これまでも国際社会では、「2000年までにあらゆる人の健康を達成するために先進各国がGDPの0.7%を拠出する」などさまざまな目標が設定されてきました。しかし、開発途上国と先進国の双方を含む世界中の指導者が2000年の国連ミレニアムサミットで一堂に会し、最も国際社会の支援が必要な課題に対して、2015年という達成期限と具体的な数値目標を定めて、その実現を公約したことは画期的なことです。

特に、次の4点でこれまでの開発目標と大きく違います。

1. 189の加盟国、147人の国家元首が限られたテーマや分野を超えた包括的な開発目標の実現を公約したこと。
2. コフィ・アナン国連事務総長 (当時) のリーダーシップのもとに、世界銀行を含む国連システム全体が結集し、MDGsの達成に取り組もうとしていること。
3. 目的達成のための具体的な戦略と取り組みを打ち出したこと。

4. 多くの開発途上国と先進国が、MDGsを自国の開発あるいは開発援助政策や枠組みとして取り入れていること。

UNDPの役割

MDGsは、UNDPが提唱してきた人間開発を推進するための達成期限を定めた数値目標であるともいえます。現在、UNDPの主導のもとに国連システム全体がMDGs達成に向けて、

- (1) 政策課題、実施手段、資金に関する研究と提言
- (2) 進捗状況のモニタリング
- (3) ミレニアムキャンペーン

にすでに取り組んでいます。また、国連開発グループ (UNDG) 議長も務めるUNDP総裁はMDGsの「キャンペーン・マネージャー」兼「スコアキーパー」として指導的役割を果たしています。

宣言するのは簡単だが...

進捗の遅い分野、達成の困難な地域・国

現在、世界人口の23%が住む55カ国では、MDGsが掲げる目標の少なくとも4分の3は達成できそうな見通しです。その一方で、MDGs達成への歩みが停滞気味で、もともと人間開発の水準がひどく低いことから目標のほとんどを達成できない可能性のある国があります。こうした特に優先的な取り組みが必要な国は59カ国あります。図

4-1に示すように、『人間開発報告書』2003ではMDGsへの進捗が停滞あるいは後退しているうちに、人間貧困の高い国（人間開発の指標が非常に低い国）を最優先国、状況はそこまで厳しくないが、資源不足や政策の欠陥によって十分な進展

が見られない国を上位優先国としています。

もし世界全体の前進が1990年代と同じ速度ならば、2015年までに達成される見込みのあるのは、主に中国とインドの所得の伸びによる「所得貧困の半減」と、「安全な飲料水を利用できない人の半

ミレニアム開発目標 (MDGs)

2000年9月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットでの公約を達成するため、8つの目標、18のターゲット、48の指標からなるミレニアム開発目標 (MDGs) がロードマップ (行程表) としてまとめられた。

● 達成期限：2015年

● 参加者：開発途上国の政府、先進国の政府、国際機関、市民団体、民間企業、学界、そして地球上に住む私たちすべて

● 目標とターゲット

目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅

ターゲット1 2015年までに1日1ドル未満で生活する人口比率を半減させる。

ターゲット2 2015年までに飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。

目標2：普遍的初等教育の達成

ターゲット3 2015年までに、すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。

目標3：ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

ターゲット4 初等・中等教育における男女格差の解消を2005年までには達成し、2015年までにすべての教育レベルにおける男女格差を解消する。

目標4：乳幼児死亡率の削減

ターゲット5 2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる。

目標5：妊産婦の健康の改善

ターゲット6 2015年までに妊産婦の死亡率を4分の3減少させる。

目標6：HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止

ターゲット7 HIV/エイズの蔓延を2015年までに阻止し、その後減少させる。

ターゲット8 マラリアおよびその他の主要な疾病の発生を2015年までに阻止し、その後発生率を下げる。

目標7：環境の持続可能性の確保

ターゲット9 持続可能な開発の原則を各国の政策や戦略に反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。

ターゲット10 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減する。

ターゲット11 2020年までに、最低1億人のスラム居住者の生活を大幅に改善する。

目標8：開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

ターゲット12 開放的で、ルールに基づいた、予測可能でかつ差別のない貿易および金融システムのさらなる構築を推進する。(グッド・ガバナンス《良い統治》、開発および貧困削減に対する国内および国際的な公約を含む)

ターゲット13 最貧国の特別なニーズに取り組む。

((1) 最貧国からの輸入品に対する無関税・無枠、(2) 重債務貧困諸国に対する債務救済および二国間債務の帳消しのための拡大プログラム、(3) 貧困削減に取り組む諸国に対するより寛大なODAの提供を含む)

ターゲット14 内陸国および小島嶼開発途上国の特別なニーズに取り組む。(バルバトス・プログラムおよび第22回国連総会の規定に基づき)

ターゲット15 国内および国際的措置を通じて、開発途上国の債務問題に包括的に取り組み、債務を長期的に持続可能なものとする。

ターゲット16 開発途上国と協力し、適切で生産性のある仕事を若者に提供するための戦略を策定・実施する。

ターゲット17 製薬会社と協力し、開発途上国において、人々が安価で必須医薬品を入手・利用できるようにする。

ターゲット18 民間セクターと協力し、特に情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする。

減」だけにとどまるでしょう。地域別に見ると、達成状況は一様でないことがわかります(図4-2)。サハラ以南アフリカでは、現在のペースが変わらなければ、貧困削減に関する目標達成は2147年まで、乳幼児死亡率に関する目標達成は2165年までかかってしまいます。また、HIV/エイズと飢餓に関しては減少どころか増加傾向にあるのです。

ミレニアム開発目標(MDGs)達成を妨げるもの

現在、各目標に向かっての歩みが遅れている国々の背景には、経済停滞、地理的条件、生物環境の悪化、貧困者のエンパワメント不足などがあります。

それに加え、紛争、HIV/エイズ、自然災害、グローバル経済といった外発的要因もMDGsの進展を妨げています。これらの内的、外的要因が重なりあって悪循環を生んでいるのです。

悪循環を絶ち、好循環を生むには

悪循環を絶ち、好循環を生むには次の3つの取り組みが必要です。

●**貧困者重視の政策**—地方分権化を進め、人々のエンパワメントを促すこと、人々の発言力や、政府・大企業の説明責任を強化すること。それにより、貧困者重視の政策をとることができる。

(→詳しくは『人間開発報告書』2003, 3章)

●**人間の潜在力を高める政策**—経済成長を促し、利益を貧しい人々の健康や教育に公平に分配できれば、所得貧困に苦しむ人々を減らすことができる。

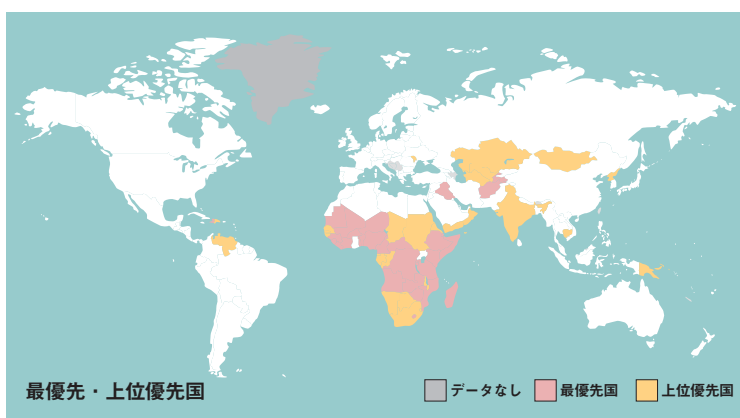
(→『人間開発報告書』2003, 4章)

●**持続可能な環境を創る**—技術革新によって地理的な不利や資金不足を克服し、環境に配慮した開発を進めることができる。

(→『人間開発報告書』2003, 6章)

達成するにはだれがなにを？

図4-1
MDGs達成にむけて—特に支援が必要な国々



	最優先国の数	上位優先国の数	
サハラ以南アフリカ	25	13	低位
東アジア・太平洋諸国	0	4	中位
南アジア	1	1	高位
アラブ諸国	3	3	
ラテンアメリカ・カリブ諸国	1	3	
東欧・CIS諸国	1	4	

出典：『人間開発報告書』2003

MDGsの達成は国際社会にとってきわめて大きなチャレンジであることは間違いありません。途上国と先進国、国際機関と市民社会、民間企業と学界を含む世界中のすべての人々がこれらの目標の重要性を十分理解し、積極的に、そして組織的、継続的に取り組まなければ、達成は容易でないでしょう。

●**民間セクターの参加**—人々の保健医療、教育、水供給や衛生設備の整備は、MDGsを達成する上で欠かせない。しかし、これらの目標の達成には政府の取り組みだけでは不十分な国も多い。このため、多くの国で基本的社会

サービスの民営化が推進されている。政府は民間セクターの活動をどうしたらMDGsや国の政策目的に沿って導入できるか、公的サービスのどの部分を民間に任せるべきかを貧困者重視の視点から真剣に考える必要がある。

(→『人間開発報告書』2003, 5章)

●草の根の支援体制—MDGsを達成するには、政治的主導と同時に持続的な政策的圧力が必要である。そのためには、人々の動員と市民参加によって、政治家や政府の主導者が公約を果たすよう働きかける必要がある。地方分権化は、地域の人々に発言の機会を与え、エンパワメントを促す。地域の人々に支えられた地方分権化は、効果的な行政、たとえば、地域のニーズへの迅速な対応、より高い説明責任や透明性、基本的サービスの改善、情報の開示、持続性のある計画、地域紛争の調整力の向上、地域の活性化、多くの市民の議員への立候補などを可能にする。

(→『人間開発報告書』2003, 7章)

●先進国の支援—先進国は、ODAの量の増加や質の向上だけでなく、途上国の開発プロセスを支援する包括的な取り組みをする必要がある。途上国の債務、移民、環境、投資問題、また、世界の安全保障、貿易などに積極的に取り組む先進国の政策が重要である。国内の農産物に対する行き過ぎた保護政策を見直し、途上国からの輸出への自国市場の開放、債務帳消しによる貧困国の経済成長の促進、そして、貧しい人々が抗HIV/エイズ薬を手に入れやすくすることなど、先進国ができることはたくさんある。

(→『人間開発報告書』2003, 8章)

必要なのは責任をもって約束を守ること

ミレニアム開発目標の8つの目標は、世界全体の人間開発の向上を達成するという先例のない大胆な約束ですが、人間開発のためにはどれひとつとして欠くことのできない不可分なものです。世界中の何十億もの貧しい人々に対し、全員が自らの責任を引き受けない限り、ミレニアム開発目

標が実現することはありません。今後の課題は、すべての国がこの約束を守り実行していくこと、そして私たちがそれをしっかりと監視し支援していくことです。

図4-2

OECD諸国と開発途上地域の乳幼児死亡率の比較

子どもの死亡する確率はどのくらい違うのか
(1990年～2001年)

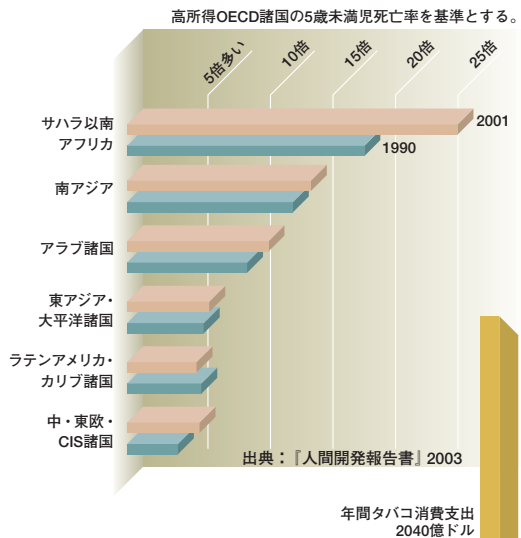
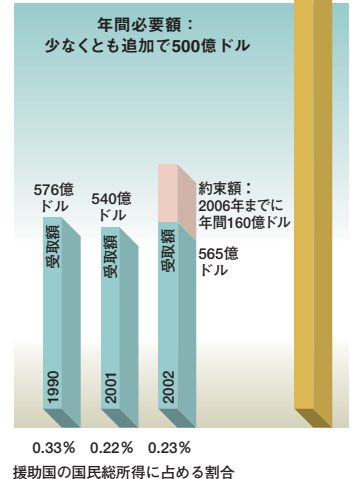


図4-3

必要な援助額と実際の援助額

貧しい国が目標を達成するには先進国の支援が必要である。しかし国連開発資金会議(2002年モンテレー)で約束した追加援助額年間160億ドルでは、ほんとうに必要な追加最低額500億ドルにははるかに及ばない。その一方世界の年間タバコ消費は2040億ドルである。タバコの消費にはこれだけの額が使われているのに、なぜ世界全体の未来への取り組みにはその半分程度の額の援助ができないのだろうか。



Q&A よくある質問・素朴な疑問

Q1 人間開発報告書は、人権やガバナンスなど毎年異なったテーマを扱っているようですが、ジェンダーや貧困についての最新データも載っていますか？

A 本報告書は、毎年時代の一步先を行くテーマをとりあげ世界的な議論を巻き起こしてきましたが、同時に「人間中心の開発」の視点からジェンダーと貧困を基本的課題としてきました。ジェンダー開発指数(GDI)、ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)、人間貧困指数(HPI)を含む関連指標も必ず掲載されています。指標の見方はこのパンフレットP8を参照ください。

Q2 各国の人間開発のレベルを測定するにはHDIで十分でしょうか？

A 十分ではありません。「人間開発」は、HDIやその他の指数(GDI,GEM,HPI)で測れる範囲をはるかにこえた、広い概念です。もう少し詳しくはこのパンフレットP9をご覧ください。

Q3 日本を含む先進国が世界のHDIの向上にできることはなにですか。

A ODAの増加のみならず途上国の債務や貿易に関する政策の見直しなど、できることはたくさんあります(『人間開発報告書』2003, 8章)。また、国内の不平等を減らし、社会的疎外にも着目し、自国の人間開発向上のために努力することも、最終的には世界のHDI向上につながることを忘れてはなりません。詳しくはこのパンフレットP11を参照ください。

Q4 2003年の日本のHDIは何位ですか？他の国と比較してどのような特徴があるでしょう？

A 2003年の日本のHDI順位は9位です。また、GDI、GEM、HPI-1はそれぞれ13、44、10位です。特に目立つのは、HDIの高さに比べ女性の政治的・経済的な意思決定への参加を示すGEMの低さです。

また、HDIは常に上位にランクされていますが、指数の算出で使われる指標のなかで、教育指標(初・中・高等教育の総就学率)が他のHDI上位国に比べ低めです。急速に変化する世界の動きに合わせ、日本でも働きながらも専門性を磨きつづけることのできる生涯教育を充実させていくことが必要でしょう。

Q5 国連加盟国すべてのHDIがないのはなぜですか？また、GDIやGEMのない国があるのはなぜですか？

A 報告書は人間開発の進展を示す豊富なデータを使っていますが、人間開発に関する多くのデータが欠如していることも確かです。国連加盟国すべてがHDI算出に必要なデータをもっているわけではありません。そのため、HDIを算出できない国の基本的な指標は、指標表30に別途掲載しています。GDIやGEMが算出できないのは、特にデータの欠如に原因があります。また、GDIは148カ国、GEMは66カ国、HPI-1、HPI-2は105カ国しか算出されていません。

Q6 『人間開発報告書』はどこで入手できますか？

A 英語版Human Development ReportはUNDPのホームページ (<http://www.undp.org>) に1990から2004年までの報告書の全文が載っています。また、日本語版は国際協力出版会 (Tel: 03-3372-6771)、英語版はUNITED NATIONS PUBLICATIONS (<https://unp.un.org/>) で購入できます。また、UNDP東京事務所のホームページ (<http://www.undp.or.jp>) からどちらのホームページにもアクセスが可能です。

データに関するその他の質問の答えも <http://hdr.undp.org/statistics/faq.cfm> に載っています。

MDG6：
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止



MDG1：
極度の貧困と飢餓の撲滅



MDG2：
普遍的初等教育の達成



MDG3：
ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上



MDG5：
妊産婦の健康の改善



MDG4：
乳幼児死亡率の削減



MDG8：
開発のためのグローバル・パートナーシップの推進



MDG7：
環境の持続可能性の確保

MDGsに関する参考情報

MDGsに関する取り組みの詳しい情報は、以下のホームページをご参照ください。

- 国連開発計画 (UNDP)
<http://undp.org/mdg/>
- 国連開発グループ (UNDG)
<http://undg.org/>
- 国連経済社会局 (UNDESA)
<http://unstats.un.org/unsd/mi/mi.asp>



UNDP 東京事務所
〒150-0001
東京都渋谷区
神宮前5-53-70
UNハウス 8階
www.undp.or.jp